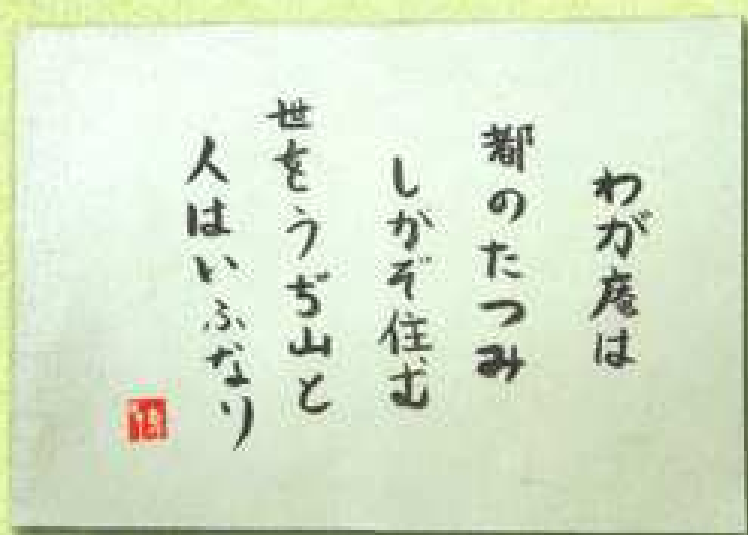


小学校における

書道体験指導事例集



はじめに

現行の小学校学習指導要領国語科への改訂の折、その趣旨に
「我が国の言語文化を享受し、継承・発展させる態度を育てること」
「我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむこと」

が示されました。

日本の文字そのものが言語文化です。そして、その文字を書く（書字）行為は言語文化の体験に他なりません。言語文化の享受、継承・発展や言語文化による感性・情緒の育成には書道体験が欠かせないと考えました。

毛筆を使用すること、古くからの書形式を体験すること、古典と呼ばれているものを鑑賞することなどを中心にした教材を通して、子どもたちに日本の言語文化に親しませようと思いました。

ここに「書道体験指導事例集」として1学年から6学年までの開発教材をまとめました。活用していただけたら幸いです。

宮 絢子

● ● ● もくじ ● ● ●

はじめに	2
指導計画一覧	3
各学年の実践例	
第1学年 毛筆に親しもう	4
第2学年 扇面の作品を作ろう	8
第3学年 書き初めに挑戦しよう	10
第4学年 うちわに書こう	12
第5学年 散らし書きに挑戦しよう	14
第6学年 座右の銘を書こう	17
あとがき	19

● 指導計画一覧 ●

学年	単元名	指導の概略	表現形式
1 学年	毛筆に親しもう	・「筆圧」を学ぶ ・筆圧を決めて<u>正方形の色画用紙</u>にことばを書く ・消しゴム印を作り、作品に捺す	
2 学年	扇面の作品を作ろう	・右から書き進めることを学ぶ ・筆ペンを使う ・<u>扇面（色画用紙で作成）</u>に書く	
3 学年	書き初めに挑戦しよう	・書き初めの歴史を知る ・<u>たて長の紙</u>に収める	
4 学年	うちわに書こう	・成人式について知る ・二分の一成人式の記念になることばを書く ・<u>うちわ</u>に書く	
5 学年	散らし書きに挑戦しよう	・平安時代の和歌の書き方を知る（散らし書き） ・百人一首の中から好きな一首を<u>色画用紙</u>に散らし書きする	
6 学年	座右の銘を書こう	・小学校生活のまとめのことばを書く ・<u>大色紙</u>に書く	

第1学年 書道体験 学習指導案(略案)

単元名 毛筆に親しもう

単元の目標 日本の伝統的筆記具である毛筆に触れ、興味をもつ。

単元の計画

(1) 用具の名称・正しい姿勢・執筆について理解する。
 (2) 毛筆を使用して、楽しんで文字を書く。
 (3) 落款印を作り、作品に捺して、世界に1つの作品に仕上げる。

展 開

学習活動	指導上のポイント
1. 用具の名称を知る	○毛筆(大筆) 下敷き 文鎮 硯 墨液
2. 姿勢・執筆を知る	○姿勢・執筆の合言葉を唱えさせる ㊦1
3. 毛筆で遊ぶ(水書き)	○筆圧1～5を体験させる(水書用紙) 水書用紙に小ピンに用意した水で書かせる ㊦2 “毛筆の特徴は筆圧にあり” ㊦3 軸を立てさせる(10円玉)→3年生の毛筆書写につながる
4. まとめ書き(墨液)	○筆圧を楽しみ、好きなことばや文字を書かせる (正方形の色画用紙) ①水書用紙に水で書く ②色画用紙に墨液で書く ※名前は裏に鉛筆で書かせる
5. 消しゴム印を作る	○別紙参照 ㊦4
6. 作品の仕上げをする	○正方形の作品に消しゴム印を捺させる
7. 鑑賞し合う	○展示して見合わせ、意見交流をさせる ※全員分、黒板に貼る

※1 姿勢・執筆の合言葉

- 足はべったん
- せすじびん
- せなかと
おなかに
グー一つ
- ふでの上には
十円玉
- 左手ぶんちん
わすれずに

※2 あったら便利（教具の工夫）

①

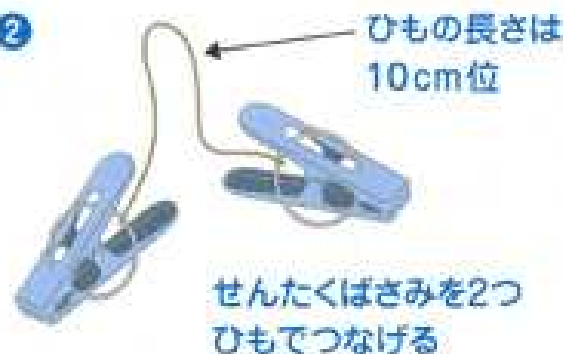


小ピン
又は
ペットボトル(小)
ふた付きで

（用途）

- ・ 水書きに使用
- ・ 片づけ時に筆洗いに使用

②



（用途）

- ・ 用紙をはさみ
机のわきのフックにかけておく

③

水書用紙（写真）

（用途）

- ・ 水で書く
- ・ 何度でも使える



準備

- 新聞紙（机上に敷く）
- 毛筆2種類（水書用・墨液用）
- 正方形の色画用紙
- 墨液の入れもの

※3 筆圧の練習（筆圧は1～5とする）

● 水書用紙に水で ●



筆 圧 1



筆 圧 5

● 墨液で ●



筆 圧 1 ～ 5

🌟 出来上がり作品 🌟



筆 圧 1



筆 圧 1



筆 圧 3



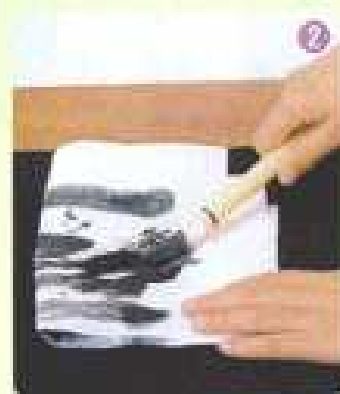
筆 圧 5

コラム

毛筆のあと始末



① びんやペットボトルなどに用意した水で筆をあらう

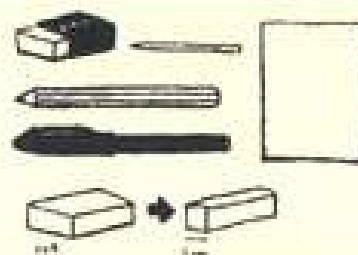


② 水分をよくふきとり、ほ先を整えておく

※4 消しゴム印の作り方

●材料

- ◆ 消しゴム
(スタンプ面が1×1センチになるように切っておく)
- ◆ コピー用紙などの紙1枚
- ◆ ようじ／濃いめの鉛筆
- ◆ サインペン



●作り方

- ① 紙に消しゴムの
りんかく線にかく



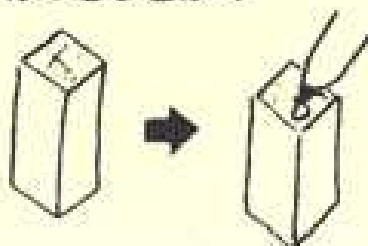
- ② りんかく線の中に
彫りたい文字をかく



- ③ 文字をかいた紙に消しゴムを強くおしあてる
(かいたりんかく線にきちんと合わせる)
紙をはずすと、文字が消しゴムに写っている



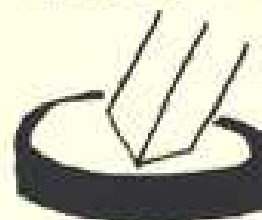
- ④ 写った文字をサインペンで
はっきりとかく



- ⑤ ようじで線の上をさしていく
(点で文字をかくようにたくさん刺す)



- ⑥ できた消しゴム印を
印泥(朱肉)につける



- ⑦ できあがり



消しゴム印 作品例



線が細すぎたら再度つまようじをさして太くする。

第2学年 書道体験 学習指導案(略案)

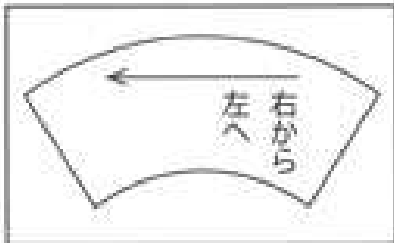
単元名 扇面の作品を作ろう

単元の目標 日本の伝統的筆記具である毛筆を使い、書道の世界にふれる。

単元の計画

- (1) 筆ペンの使用になれる。
- (2) 扇面に筆ペンを使ってことばを書く。
- (3) 落款印を作り、扇面の作品に捺して、世界に1つの作品にする。

展 開

学 習 活 動	指 導 上 の ポ イ ン ト
1. 姿勢・執筆を復習する	○筆ペンの持ち方、姿勢について思い出させる ○筆ペンの筆圧について復習させる
2. 筆ペンで遊ぶ	○扇面に自分の好きなことばを書かせる ・2、3文字のことばを書かせる →色画用紙  ・ことばを右から左へ書き進める※1 ・練習用2枚(白紙でよい) 本番用3枚(色画用紙) いずれも扇形を印刷しておく
3. 消しゴム印を作る	(作り方は第1学年指導案を参照)
4. 作品の仕上げをする	○扇面に落款印を捺して仕上げさせる
5. 鑑賞する	○展示して見合わせる

準 備

- 筆ペン
- 書きたいことば
- 印泥(スタンプ台)
- 扇形を印刷した用紙(練習用・本番用)
- 消しゴム印

※1 右から書いていたということ

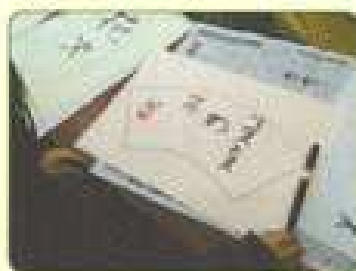


← 四行書き（一行1文字構成）



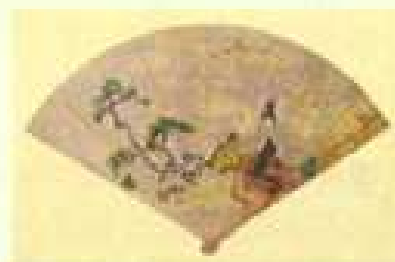
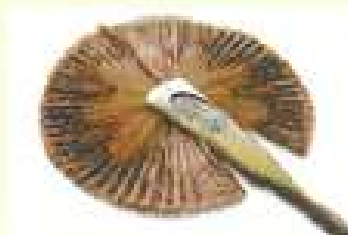
← 三行書き（一行目2文字
二行目1文字
三行目1文字）の構成

出来上がり作品



コラム

いろいろな扇面



第3学年 書道体験 学習指導案(略案)

単元名 書き初めに挑戦しよう

単元の目標 日本の伝統的行事である毛筆書き初めを体験する。

単元の計画 (1) 日頃の書写学習のまとめとして、書き初めの語句の筆使いと字形の確認をする。
(2) たて長の紙に本文と氏名を収まりよく書く。

展開 題材「お正月」

学習活動	指導上のポイント
1. 「書き初め」の由来を知る	※下記参照 ○練習用紙による 筆使い } ※練習用紙例 ○練習用紙による 字形 } ○紙を折って、中心線や文字の大きさがわかるようにさせる ○氏名は、大筆の穂先を整えて書かせる
2. ことば「お正月」に対する思いを交流する	
3. 筆使いの復習をする	
4. 字形の確認をする	
5. たて長の用紙に書く	
6. 鑑賞する	

準備

●練習用紙 ●たて長の用紙

コラム

※書き初めの由来（書き初めとは）

書き初めとは、年が明けて初めて毛筆で書や絵をかく行事。通常は1月2日に行われる。元は旧暦の1月2日に行われた。吉書（きっしょ）、試筆（しひつ）、初硯（はつすずり）などともいう。

若水で墨を摺り、恵方に向かって詩歌を書く習慣があった。書く詩歌は「長生殿裏春秋富、不老門前日月遅」という漢詩がよく用いられた。もともとは宮中で行われていた儀式だったが、江戸時代以降庶民にも広まった。

書き初めで書いたものは左義長で燃やし、その炎が高く上がると字が上達すると言われていた。
(Wikipedia参照)

長い紙に挑戦

● 折ってよい ●

文字の大きさ、文字や行の中心を考えさせるために折らせる。

● 手本を折る ●



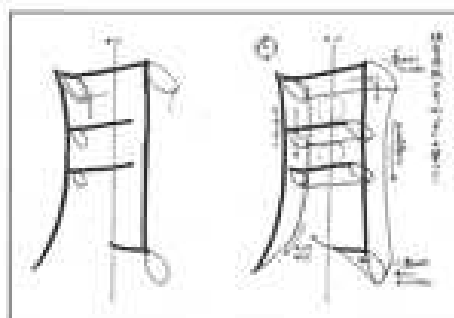
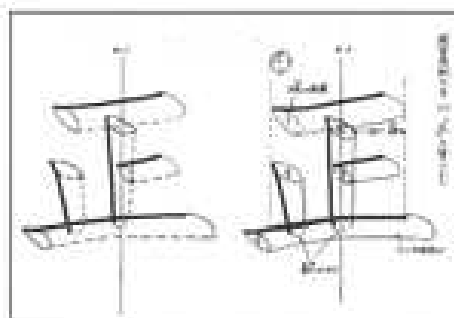
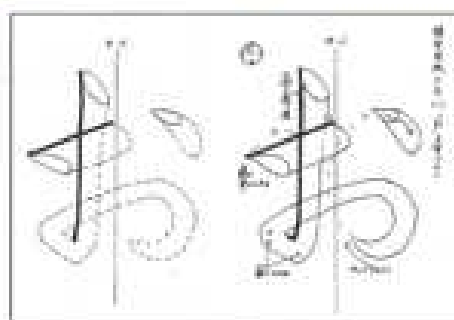
● 用紙を折る ●



出来上がり作品



● 練習用紙例 ●



筆使いの練習用としても、字形の練習用としても使える

第4学年 書道体験 学習指導案(略案)

単元名 2分の1成人式の思いを『うちわ』に書こう

単元の目標 日本の伝統的行事である成人式(20歳)の半分を迎えた4年生が、今の思いをうちわに毛筆で書き、お互いに思いを交流する。

単元の計画

- (1) 思いを表わす語や文を考え、毛筆(大筆・筆ペン)で練習する。
- (2) うちわに書く。
- (3) 落款印を捺し、展示して鑑賞し合う。

展 開

学 習 活 動	指 導 上 の ポ イ ン ト
1. 成人式の由来について知る	※下記参照
2. 2分の1成人式に対する思いを交流する	○育て、見守ってくれた人への感謝、これからの決意 etc
3. 「うちわ」に書くことばを決める	○1～3文字であれば大筆、語句・文の場合は筆ペンがふさわしい
4. 「うちわ」に書く	○「うちわ型」の練習用紙2～3枚、うちわ1枚 ○横書きは、右から左へ書くことを指導する
5. 作品の仕上げをする	○落款印を捺して仕上げる
6. 鑑賞する	

準 備

- うちわ
- うちわ型練習用紙
- 書きたいことば
- 大筆、筆ペン
- 消しゴム印
- 印泥(スタンプ台)

コ ラ ム

※成人式の由来

奈良時代(7世紀頃)、中国の「元服」の儀式にならって行われました。「大人になった」と認め、特定の衣服を着たり、改名したりする儀式で、男子のみに行われていました。

明治以降「元服」の制度はなくなりましたが、現在、大人になったしるしの儀式をしたいとの考えから、本当の「大人になったことを自覚する儀式」として成人式が行われています。

第5学年 書道体験 学習指導案(略案)

単元名

百人一首』で散らし書き※1に挑戦しよう

単元の目標

平安時代の美しい仮名表現の散らし書きに挑戦する。

単元の計画

- (1) 百人一首の中から、自分の好きな一首を決めておく。
- (2) 「散らし書き」について学ぶ。
- (3) 自分で工夫した散らし書きをし、落款印を捺して仕上げる。

展開

学習活動	指導上のポイント
1. 「散らし書き」という表現方法を知る	○平安時代の代表的な作品を提示する 継色紙(伝 小野道風 筆) 寸松庵色紙(伝 紀貫之 筆)
2. 散らし方の具体例を見る	○ことばを大切にするため、5・7・5・7・7に分けることを基本とする 「散らし方」 ①句の高さに変化をつける ②句と句の行間の広さに変化をつける ③行の傾きに変化をつける ④墨つぎに変化をつける
3. 自分の一首を5・7・5・7・7に分けて書き、散らしてみる	○半紙に筆ペンで書かせて、散らしの構成をさせる※2 半紙 77575 ①半紙を横8等分に折る 書く ②切る ③切ったものをならべてみる。 ※散らし方の例を参照
4. 用紙を選び、散らし書きをする	○好きな色画用紙へ、散らし書きをさせる  縦  横
5. 作品の仕上げをする	○落款印を捺して仕上げさせる
6. 鑑賞する	

準備

- 半紙
- 色画用紙
- 書きたい一首
- 筆ペン
- はさみ
- 消しゴム印
- 印泥(スタンプ台)

※1 散らし書きとは

和歌など、仮名書きの構成法のことです。

その歴史は平安時代にさかのぼり、日本書道独自の書法といえます。

「文字の大小、文字や行の配置・墨継ぎ・余白のとり方」などを考えて書きます。

小学生には「行頭の位置・行間の広さ・行の傾き」に変化をつけさせることで「散らし書き」が楽しめます。

● 散らし方の例 ●

①用紙を横に使い5行にする



②用紙をたてに使い4行にする



コラム

「百人一首」について

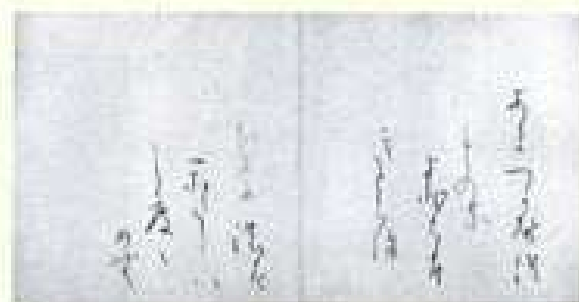
百人の歌人の和歌を一首ずつ選び集めた歌集のことです。

鎌倉時代に京都の小倉山に住んでいた歌人の藤原定家の撰といわれる小倉百人一首が有名です。恋のうたは 43 首・秋のうたは 16 首あります。女性歌人は 21 人、僧侶は 15 人選ばれています。

昔、カルタといえば、百人一首を指しました。

散らし書きの古筆

(寸松庵色紙)
伝紀貫之筆



(継色紙) 伝小野道風筆

※2 「散らし書き」のできるまで



①半紙に5・7・5・7・7に分けて書く



②書いたものを切る

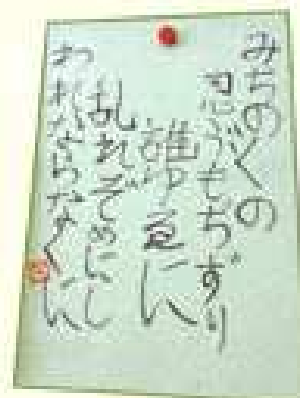
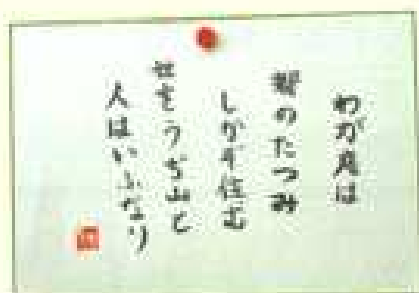
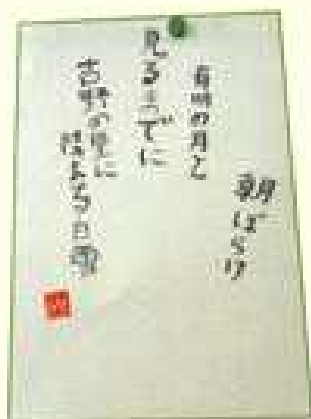


③切ったものを色画用紙に散らしてみる（ならべる）



④「この散らしていこう。」色画用紙に書く

出来上がり作品



第6学年 書道体験 学習指導案(略案)

単元名 座右の銘を書こう

単元の目標 日本の伝統的表現形式である大色紙に座右の銘を書き、小学校生活のまとめとする。

単元の計画

- (1) 書きたいことばを考える。
- (2) 半紙を大色紙の大きさに折って練習する。
- (3) 大色紙に書き、落款印を捺して仕上げ、互いに鑑賞する。

展 開

学 習 活 動	指 導 上 の ポ イ ン ト
1. 座右の銘を色紙大の練習用紙(半紙)に書いてみる	○小学校の卒業を目前にしたこの時期に、小学校生活の振り返りと、中学校生活への期待にふさわしい、自分だけのことばを見つけさせておく(1～4文字程度)
2. 大色紙に書く	○縦、横の使い方は自由 ○2行の場合、右から書くこと
3. 作品の仕上げをする	○落款印を捺して仕上げさせる
4. 鑑賞する	

準 備

- 半紙
- 大色紙
- 書きたいことば
- 大筆
- 消しゴム印
- 印泥(スタンプ台)

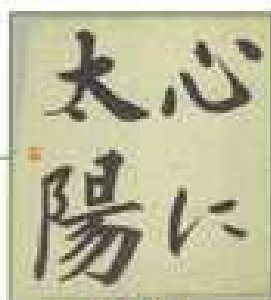
コ ラ ム

座右の銘とは「常に自分の身近なところに記しておいて、日常のいましめとすることばや文」のことです。

ここでは「いましめ」だけでなく、6年間の思いや中学生活への期待など、この時期に感じるさまざまな思いを表すことばとして『座右の銘』を広くとらえさせ、小学校生活のまとめとさせてはどうでしょうか。

● 色紙の使い方例 ●

たてに使う



4文字



2文字



1文字

横に使う



2文字 (右から書く)



1文字

● 半紙で練習 ●
(色紙大に折る)

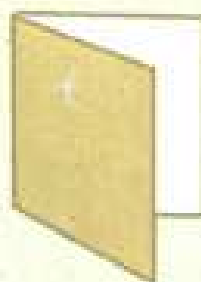
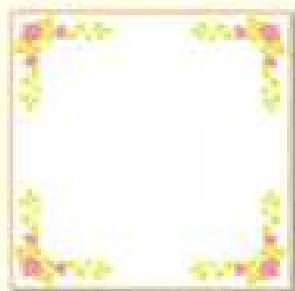


印を捺して
出来上がり



コラム

色紙のいろいろ



東京家政大学の児童教育学科には小学校教員養成課程があります。そして、教職科目の「書写教育法」では、小学校における国語科書写を指導するための基礎的・基本的なことを学んでいます。その結果、小学校の教育課程に「年間30時間程度」位置づけられている「毛筆書写」を、自信をもって指導できる教員として学生が育っています。

小学校現場に出た学生が、書写教育と隣り合わせにある「我が国の言語文化」としての「書道体験授業」が実践できれば、子どもたちの学びは豊かなものになるはずです。その時の参考資料になることを願ってまとめました。

この事例集を参考に、日本の津々浦々の小学校で子どもたちに「書道体験授業」が行われることを願っています。

実践やまとめに当たり、全面的にご協力いただいた杉並区立杉並第一小学校の鈴木知徳校長先生をはじめ、すべての学年の担任の方々・全校児童の皆さん、東京家政大学児童教育学科の佐々木幸枝先生に心より感謝しお礼を申し上げます。

資料	・消しゴム印の作り方	日本絵手紙協会
	・扇面・色紙上達のツボ	可成屋
	・みんなと学ぶ小学校書写三年	学校図書株式会社
	・小学校学習指導要領解説国語編	文部科学省

発行	2014年4月1日
著者	宮 絢子（東京家政大学）
協力	佐々木幸枝（東京家政大学） 鈴木 知徳（杉並区立杉並第一小学校）